

介護プラン充実 「ライフマップ」

入居者の思い出や趣味映し 生き生きと

施設で暮らす高齢者に、毎日生き生きと過ごしてほしい。そんな願いから、九州大学の研究者らが、高齢者の思いをくみ、介護計画を作るためのキットを考案した。「ライフマップ」と名付けたキットは、道を描いたA3判のボード、家族や趣味をイラスト化したマグネットなどで構成。ボードにマグネットを貼りながら話ができる。

北九州市の老人ホームで暮らす90代の女性は、「園芸」のカードを見て、「小さな盆栽を作るのが好きだった」と明かした。女性の介護計画の長期目標は「おむつが外せ、トイレでの排泄が保てるようになる」から、「小さな盆栽の愛好家が増え、趣味を共有できる仲間に出会って過ごせるようになる」に。施設で盆栽に取り組みようになった女

性は、脱臼している右腕が上がるようになり、周りの人たちの「師匠」にまでなった。キットは、九州大学の平井康之教授（デザイン学）ら産官学の研究グループが考案した。デザインの力を生かして介護現場の課題を解決しようと、4年前に取り組みを開始。何ができるかを探るため、まず研究グループのメンバーは高齢者施設の入居者に話を聞いた。

改良を重ねたライフマップは、このほど商品化された。税別3万4800円から（使い方の手引、DVD付き。研修の有無などで価格は変わる）。問い合わせは「さわやか倶楽部」（0930・5511・5100、lifemap@sayayakacub.jp）へ。



ライフマップを使って入居者の思いを聞く小林さおりさん(右)＝北九州市八幡西区



人生のできごとなどを表すマグネットの一部

ウチヤマホールディングス（北九州市）が運営する有料老人ホームのケアマネジャー小林さおりさん(46)は、このプロセスで入居者の思い出や家族への思いに触れ、はっとした。「生きがいを探すには、その人のこれまでの人生を知ることが必要だ」。以前

改訂を重ねたライフマップは、このほど商品化された。税別3万4800円から（使い方の手引、DVD付き。研修の有無などで価格は変わる）。問い合わせは「さわやか倶楽部」（0930・5511・5100、lifemap@sayayakacub.jp）へ。

オトナになった 女子たちへ

伊藤理佐

スケジュール帳かねる、日記がある。あ、日記かねる、スケジュール帳かもしれない。その「帳」のうしろに白いペーシが何枚かついてい



あと、出版関係★名物
ゴールデンウィーク進行中...

去年の自分に夢中になる。また震える。「5月連休あと、花粉のあとと黄砂。ブツブツ」と。ガクガク(膝)ブルブル(肘)……黄砂、思い出したよ、君を！最近、クシヤミはおさまったのに、顔に赤いブツブツが。花粉終わって、マスクはずして、黄砂

歯磨き粉)、げたをはかないのに箱」など。和式のくみ取り便所は薄下に落ちないか怖かった覚えがあり(静岡県 大箸友徳さん 56歳)・感想は〒104・8011朝日新聞文化く道部オトナ女子係へ。

